

## 黎明紙第4号御研鑽

明主様の御救いについて（その3）

浄霊について（中）

神様の御目的である真善美完き理想世界・地上天国実現の段階に愈々人つてきていることを、明主様から私共は、はつきりとお説きいただいで居ります。

ここで、最も根本的、且つ困難な問題は、長い間、神様無視してきた世の中の大半の人々の魂を呼び覚まし、神様の実在を認識させることであることは、先号で申上げた通りであります。

今日までの多くの宗教が、このためにいかに多大の苦心努力をはらってこられたかは今更申上げるまでもないことであります。しかし、この事が非常に難かしい問題である

ことは、現在の世の中の状態を見ればよく分るのであります。

ここに、天の時来って、主神は明主様を通して、その直接的な絶対力を發揮されることになったのであり、浄霊こそその表われであります。また、先号で考えさせていただきましたように、浄霊は宗教と科学以上の真理の表われであり、而も科学との接点をも兼ね備えて居り、唯物分野の人々でさえ神様の御力・御心にふれさせていただける可能性をもっているわけであります。ここに浄霊による奇蹟と、今日までの宗教による奇蹟との間に、本質的な違いを見出させていただけれると思えます。

しかし、ややもすると、誰しもがあまりにも簡単に浄霊のお取次ぎをお許しいただけるためにより高い段階で浄霊

のもつ意義をつかませていただく努力を怠り、自分勝手な考えで浄霊を理解出来たつもりになったり。

その誤まった考えを人に取次ぐおそれが出てくるのではないかと思います。

明主様はかつて「この道を研究したいと希望する人は、お守りを受けたらよい」(24・7・3)と、仰しやつて居られます。しかし、すぐその後で、「そういう時には大いにいろいろ知らせてあげたらよい」とつけ加えて居られます。恐らく、研究は大いに結構だが、同時に出来るだけ多くの御教えに接することによって、誤まった方向にふみ迷わないようにしなさいと、注意して下さいのだと思います。

ここで、私共が考えさせていただけかねばならないことは。長い間唯物科学・無神思想に支配されて来た人々が、実際に奇蹟のあらわれを目前にしても、その奥に潜む神様の御心をつかませていただくことはおろか、恐らく偶然として片付けてしまいか、全然見逃してしまふのが大部分でありましょう。よくいつて表面的な解釈で満足してしまふことが多いわけであります。勿論これは、その人の魂の状態・靈的な条件が、十分に神靈の分野のことを認識するまでになっていないからであると思います。ここに、私共は再び浄霊のもつ大いなる意義を見出させていたゞるのであります。

浄霊は『**靈を浄める事を目的とするもの**』（『**靈主体** 従

）であり『**靈の曇りの解消法**』（地34）であると御

垂示いただいております。また、『本教浄霊に至っては、直接魂に向って霊光を注いで浄めるのであるから、その効果たるや到底体的（五官を介して浄める方法）の比ではない』（地39）とお説きいただいて居りますように、

浄霊の御力によつてはじめて、人々が奇蹟を通じて神霊の实在を認識し、更にその奥に潜む神様の御心を覚り得るような魂にならせていただけるわけであります。私共は、浄霊をいただくことによつて、奇蹟を体験させていただくと同時に、

たとえ自分では気がつかない間にも、霊の曇りを浄めていただく、更に深い御神意を覚らせていただける魂へ一段一段と向上させていただいているわけであります。『理窟でも科学でも経験でも解釈出来ない』（奇1）奇蹟を体験

し、その奇蹟が単なる偶然ではなく、起るべき理由があつて起ること、それも、『本原は靈に起り、体に移写するのである』（奇3）ことを分らせていただき、遂にはその根源である神様の実在を認識し、更に神様の御心を覚らせていただくために、神様が私共に採られた方法が浄霊であることを、今一度はつきりさせていただかなければならないと思います。

かつて、フランスのある雑誌の主筆をしていたカルティユ氏夫妻が明主様とお会いし、浄霊について色々お尋ねしたことがあります。その時、カルチユ氏は「癒す御力というものがお有りになると同時に、例えば頭を痛くする事もお出来になりますので」と言う大変核心をついた質問

をされました。これに対し、明主様は即座に次のようにお答え下さったわけであります。

『出来ません、之は何処迄も善ですから―痛めるのは悪です。苦痛ですからね。但し、痛みを取る為に一時痛む場合もあります。それは浄化作用です』(栄164) また、ある御論文の中で、

浄霊の一つの特異性として、『その目的が正であり善であり、人類愛的でなければ効果を發揮し得られない事である』(地4)とお説き下さって居ります。ここに、私共は浄霊が科学との接触点をもちながら。決してそれだけのものでないことを分らせていただけると思っています。

現在、科学文化によつて、私共は多大の恩恵をうけてきたことは否定できない事実であります。現代社会の輝かし

い様相は、全く科学の進歩、發達によるものと申しても過言ではありません。しかし、原子爆弾等を見ても分るように、『**進歩した科学を悪の方でも利用する**』危険が生じてきて居ります。つまり、科学そのものは、善の働きにも感の働きにも利用され得るわけであり、それを使う人間の心に左右されるといふことでもあります。

しかし、浄霊は如何なる人間がお取次ぎさせていたただいても。あくまで善の働きであり、悪の働きに利用されることなどは全くありえないわけであります。世の中にはややもすると善と信じて行つたことが人を不幸にする場合もあるわけでありますが、私共が浄霊をお取次ぎさせていたただいている時は。完全に善の働きとしてお使いいただけのわけでありませぬ。



ある人が、「人以外の生物や無生物に御浄霊をしても素晴らしい効果がありますのはどういう訳でしょうか」と質問申上げたことがあります。明主様はその時、『浄霊をするとな、すべての曇りが取れて浄化するんです。浄化するとね、何でもすべていい働きをする様になるんです。（中略）つまり、森羅万象一切のものは曇りがとれると「力」が出て、その物本来のよい働きをするんです。

（中略）浄霊すればあらゆるものが、悪いものは減り、いいものは多くなる。で、その用途がよくなるんです。だから、浄霊すると、すべて人間の幸福を増すべき働きをする様になるんです』（光17・24）とお答え下さって居ります。また、火事を浄霊によってお救いいただいたことにつ

いて、ある人が「これは焼くべきものを焼かず、済ましてしまふんだから悪いのではないか」と言ったのに対し、明主様は『そうではない、非常にいい事なんです。つまり、それが神の慈悲なんです。悪人も助けなくてはいけません。火事が起ったというのは、そこが穢れているからそれを浄化するために焼かれるんですが、浄霊すれば曇りが消えて難を小さくしていただけるんです。不仕合わせはこの浄霊によって消滅するんです。何事でも人間の苦しみを減らす事は神の慈悲なんですから、余計な事は何も考えないで、無意識に、ただ可哀想だからやっつてあげる、それでよい。無意識でいいんです。それが己むに己まれぬ慈悲なんです。そして、そうする事がまた、神様

の御旨に適うんです』 (光17・22) ともお説き下さつて居ります。

『浄霊は病気を治すのが目的のようになっていたが、本当から言うとそれだけではないので、もっと大きな意味がある。一言にして言えば浄霊とは幸福を生む方法』 (地3 4) であり、そこには、人間の不仕合せをなくし、一人でも多くの人間を救わんとされる神様の大愛の御心がこめられていたことを忘れてはならないと思います。

以前、印度で水の上を歩いて渡った人のことについて、『水の上を渡ったりしたって、人間や社会には何の益もない。単なる興行師にすぎない。つまり、病気が治ったり、貧苦が解決したりなど実際の効果があれば駄目です。』 (昭23・II・28) と、お説きいただいて居ります。

すように、明主様を通してあらわされる奇蹟には、必らず私共を苦しみから永遠に救わんとされる神様の御心がこめられているのであります。

私共の浄霊に対するあり方が、興味本意に終ったり、単なる病氣治しとして、それも自己のためだけに利用するようなことに陥ったりするのを厳につつしまなければならぬと思います。

浄霊の御光りを魂にいただき、奇蹟を体験させていただいた時、

その人の魂の状態はそれ以前とは異っているわけでありますから、その人の浄霊に対するあり方も当然変わっていきなればならないわけであります。

『その病人が何も分らない内は疑いもし、反対もし、物は試しだぐらいにやるのですが、それはそれで神様から許されます。それは当り前です。ところが相当に話を聞いたり、御神書を読んだり、中には信仰に入ったりする人があります。入っているながら、それに合ってゆかない想念でやってもらると、そのときは治りが悪いのです。うまくゆかないのです。そういう事に対してチャンと合理的の理窟があるのです。

だからかえって疑っていた人が馬鹿に治り、それから相当に信じている人で治りが悪いという事がありますが、それはそういう訳です。全然知らない人はいくら疑っても、それは当り前の事で許されるのです。理窟に合っているのです。ところが相当事実を見せられながら、なお疑っている

人は思うようにいかないのです。そういう事をよく考えてみるとチャンと理窟に合っているわけです。その合っている理窟を早く発見し早く知るといふ事が智慧正覚です。』  
〔教29・5く6〕とお説きいただいて居ります。浄霊をいただき、曇りを浄めていただくことにより、同じ奇蹟を通して、より深く御神意を覚らせていただくことが出来るわけであります。

しかし、もし『御教えに基づく信仰』の確立がなされて居ない場合には、せっかく奇蹟を体験させていただいても、最後には自己流の解釈に陥ってしまうのではないかと思います。

明主様は、かつてお蔭話や体験談に解説をつけて下さったことがあります。恐らくその中にある御神意を、私共が

今後少しでも深く正しく覺らせていただけるようにとの御心からそのようにして下さったのだと思います。

次号では、この点から出發して、淨靈にこめられている神様の御心について今少し考えさせていただきたいと思えます。